

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成30年度 タブレット端末を活用した視覚支援
授業について	教科名等	■国語 □社会 □算数/数学 □理科 □生活 □音楽 □図画工作/美術 □家庭/技術・家庭 □体育/保健体育 □特別の教科 道徳 □外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間 □特別活動 □自立活動 □各教科等を合わせた指導 □その他の教科 □その他( )
	単元・題材名	『史記』「四面楚歌」
	授業の目標	・漢文を通じ、中国文化についての理解を深める。 ・支援の対象生徒が教師の指示や提示された情報に集中し、また、情報を理解するために支援機器を主体的に活用することができる。
	学力の3要素	□「知識及び技能」 □「思考力・判断力・表現力等」 ■「主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	■通常の学級 □通級による指導 □特別支援学級 □特別支援学校 □就学前 □小学生 □中学生 ■高校生以降 □特定されない ( 2 )年 ( 6 )人
	対象の障害	□視覚障害 □聴覚障害 □知的障害 □肢体不自由 □病弱・身体虚弱 □言語障害 □自閉症 □情緒障害 □LD(学習障害) ■ADHD(注意欠陥/多動性障害) □その他
	子供の困難さ	□見ること □聞くこと □話すこと □読むこと □書くこと □動くこと □コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること ■落ち着くこと・集中すること □概念(時間、大きさ等)を理解すること □学習(計算、推論等)すること □その他 ・指示の聞き逃しが多く、また提示された情報を見つけることが難しい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(□A1意思伝達支援 □A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(■B1情報入手支援 □B2機器操作支援 □B3時間支援) C学習支援(■C1教科学習支援 □C2認知発達支援 □C3社会生活支援) D実態把握支援(□D1実態把握支援) ・全体支援として教材のプレゼンファイルをプロジェクターでスクリーンに提示するとともに、個別支援の必要がある生徒が周りの刺激に気がとられないように、対象生徒に配布したタブレット端末にもプレゼンファイルを投影させる。また、対象生徒が自分専用のタブレット端末の画面を部分拡大やページ移動するなどの主体的な活動を促す。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	・タブレット端末(iPad) 教員用1台 生徒用1台 ・プロジェクター ・マグネットホワイトボード ・卓上スタンド ・Conference Pad (アプリ)    
授業展開	授業展開・支援の手立て	・6人の少人数クラスへの全体支援と、指示の聞き逃しが多く、また提示された情報を見つけることが難しい生徒1名に対して個人用のタブレット端末を準備し、個別支援を実施した。 【全体支援】 ・教師のタブレット端末をプロジェクターにつなぎ、プレゼンファイルをスクリーンに提示し、注目させたい部分は拡大表示させた。 ・訓点つけや書き下しを確認する際に、タブレット端末を書画カメラとして使用して学習プリントを拡大提示し、生徒に注目させた状態で書き込んだり、注意すべき箇所に注目させた。 【個別支援】 ・アプリを使用して、教師用のタブレット端末に表示したPDFファイルが無線で対象生徒のタブレット端末に表示できるように設定した。また、スクリーンに表示されたプレゼンと連動させないで、対象生徒が個人用のタブレット端末を操作して画面の部分拡大やページ移動ができる機能を活用し、自分自身で提示された情報を再確認できるよう支援を実施した。 ・教師用のタブレット端末で撮影した画像をPDFファイルに変換し、対象生徒のタブレット端末に表示させるなど、板書の支援を実施した。 
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	【全体支援】 ・教材を拡大提示してスモールステップで授業を展開したことにより「わかる」「できる」を実感している。 【個別支援】 ・個別の視覚的な提示があることにより授業に集中できるようになり、集中が途切れることがほとんどなくなった。 ・提示された情報を再確認して間違いに気づくなど、主体的に学べるようになりつつある。